

2021年度事業計画 (2021年4月～2022年3月)

1. 2021年度の事業計画概要

2021年度も未だ新型コロナウイルスは終息には至っておらず、新たな変異ウイルスの出現により依然として危機は続いているものの、ワクチンの投与も開始され、ウィズ・コロナの生活も新たな段階に入ったと言えます。5月末のOECDの予測では、2021年世界の実質経済成長率は5.8%に上方修正されました。

しかしながら、日本の成長率は2.6%に引き下げられました。背景には、ワクチン接種の遅れや緊急事態宣言等による消費回復の遅れなどが挙げられており、当面の経済活動は感染拡大に伴うブレーキと感染一服によるアクセルという交互の状態が続き、今後も経済格差などの二極化が進行していくものと見込まれます。

また、今夏に延期となった東京オリンピック・パラリンピックは開催に向け準備が進んでいますが、多くの課題が山積しており、日本経済への影響は計り知れません。

こうした中、「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律案」が閣議決定され、通常国会で新法が成立し、2022年4月から施行される見込みとなりました。前年度より、当協会は資源循環戦略に関する幅広い情報を収集し、技術委員会にて関連するテーマを取り上げてきました。今年度はこれを更に深化させ、容器包装の環境対応について深掘りしていきます。

また、このような環境対応は、一つの業界単独での推進は困難であることから、プラスチック推進協議会や全国清涼飲料連合会といった関係団体との意見交換の場を設け、将来的には連携しながら活動が可能になるよう検討を進めます。

この他、例年と同様に、会報誌キャップ春秋の発行、ホームページを活用した情報の提供や各種お問い合わせへの対応、及び、大崎フォレストビルディングのプラスチックキャップ回収窓口などの活動を引き続き行っていきます。

2. 個別事業活動について

2-1. 技術委員会の活動について

今期も定例技術委員会は従来通り2か月に一度、奇数月に開催する予定です。事業計画概要でも触れていますが、プラスチックの資源循環に向けて新法が成立し、来年度からの施行が予定されています。当協会としても新法に的確に対応するため、今年度新たに技術委員会に環境対応ワーキンググループ(以下、WG)を設け、適宜活動していきます。

環境WGは、既にLCAデータ作成に向けて活動中である「リシール缶用キャップWG」、及び、清涼飲料PET容器の資源循環(水平リサイクル等)に対応すべく「清涼飲料PET用キャップWG」を設置し、最新の情報収集と適切な対策を検討していきます。

また、キャップ回収業者の見学など、環境関連会社や団体との接点を増やし、今後起こりうる課題と対応を検討します。

2-2. 見学会の開催

本年度の見学会は、昨年見送りとなりましたニッカウキスキー仙台工場宮城峡蒸溜所と一ノ蔵への見学を予定しています。

2-3. 会報誌キャップ春秋の発行

2021年度における技術委員会での検討内容、見学会の内容、その他当協会の活動内容などを掲載します。

2-4. ホームページを活用して情報発信

役員や会員情報などの変更事項、及び2021年度事業計画、キャップ春秋の掲載などを行います。

2-5. 大崎フォレストビルディングのプラスチックキャップ回収窓口

本年度も大崎フォレストビルディングでの回収窓口を継続します。